

申込内容例

第18回 国内研修事業申込書

申込日 2026年10月16日

氏 名	しみず たろう		年 齢	※申込時の年齢		
	清水 太郎			38 歳		
メール アドレス	※本研修の可否通知や決定後の案内、資料等すべてメールでご連絡します。頻繁に確認するメールアドレスを記入ください。 shimizu@shimizu-kikin.or.jp					
職 種	相談支援専門員		福祉経験 年数	8 年		
福祉資格	社会福祉士・精神保健福祉士					
所 属	法人名	しゃかいふくしほうじんしみずきん				
		社会福祉法人清水基金				
	事業所名	さぼーとせんたーしみず				
		サポートセンター清水				
	事業所 住所	とうきょうとちゅうおうくにはんばし		事業所電話	03-3273-3505	
		〒 103-0027 東京都中央区日本橋3-12-4				
事業種類	生活介護・相談支援					
法人概要 ・ 事務所概要	※簡潔に記載すること <法人概要> 1966年に設立。知的障害者の方の地域生活を充実する場を増やしたいという想いから、地域の有志で法人を設立し授産施設を開設。現在、事業所数は3か所、職員数は全体で65名。 事業は、就労継続支援B型、生活介護、相談支援と幅広く展開している。 <事業所概要> 1990年に開設し、相談支援事業・生活介護を行っている。 現在、相談支援75名、生活介護20名の利用者がおり、13名の職員が在籍している。近年相談支援サービスの比重が高くなっている傾向にある。					
知った きっかけ	都道府県・その他（法人内の紹介）					

※本研修申込に伴いご提出いただいた個人情報は、本研修（選考、研修、研修に付随する事務手続き）にのみ使用します。

ご自身の状況と志望動機

法人名 社会福祉法人清水基金

氏名 清水 太郎

1. 職務経験と現状の課題

(1) 職務経験と現状

当法人に入職し3年間生活介護を経験した後、相談支援に異動し現在に至る。
生活介護では、雑誌付録の封入作業や利用者の特性や希望に沿った制作活動を提供し、支援を行った。
また、月1回の外出や近隣の清掃活動等も取り入れ、利用者の方々の健康維持・社会参加の機会も図った。
現在の相談支援では、30名の計画相談を担当をしている。
担当には生活介護の利用者もいること、人手不足もあり、一部生活介護の支援も並行して行っている。
相談の利用者の方は、以前は知的障害の方が多かったが、現在は発達障害、精神障害の方が全体の7割近い。
以前は、発語が少なく意思疎通の難しさを感じていたが、現在は会話自体は可能であるが、会うたびに本人の気持ちが変わっていたり、本人と家族・関連事業所間で意見が異なり対立するといったケースもあり、本人の意思をしっかりと把握し、周囲と連携・調整しながら計画を立てていくことの難しさを感じている。

(2) 現在の支援現場で直面している課題・悩み

- ・サービス等支援計画を立てているが、何かと書類作成業務追われてしまい、形だけの計画になってしまっているように感じている。
- ・アセスメントやモニタリングでも、本人や家族と話を深める時間が少なく、より良い支援を見いだせていないように感じている。
- ・どのようにして本人の意思や家族の思いが反映できるアセスメントの仕方や計画づくり、モニタリングができるのか課題に感じている。
- ・業務において、知識不足からより良い支援につなげられていない。
- ・また、本人の意向を聞けたとしても、希望する資源が見当たらなかったり、家族や本人のかかわる事業所の理解を得られないこともあり、周囲との連携についても課題を感じている。

2. 研修参加の動機・活用

(1) 志望動機 ※応募のきっかけや受講が必要と考えた理由

- ・上司から国内研修を教えてもらい、プログラムを見て内容に非常に興味を持った。
- ・講義内容が幅広く充実しており、自身の障害福祉の基礎からしっかり学び直せるのではないかと考えた。
- ・国内研修の参加が今後の計画づくりなどに生かせると思い、ぜひ参加したいと思った。
- ・全国の職員の方が集まる研修であるため、様々な地域の取り組みや支援についてを知る絶好の機会であると感じた。

(2) プログラムの中で最も関心がある項目とその理由

- ・講義「意思決定支援」：ご本人の望む生活を実現するための計画づくりを目指したいが、自分の意思を伝えることが難しい方がいて計画づくりに苦労しているため。
- ・講義「地域共生」：地域資源活用や地域との連携にも興味があるため。
- ・演習：特に、個別支援計画作成部分は、自身の業務において応用できるのではないかと非常に関心があるため。

(3) 研修で得た学びの共有・活用方法

- ・計画作成への活用
- ・ケース会議、関係機関との協働での活用
- ・若手職員への伝達・育成への活用
- ・職場内での研修参加報告会の実施

履 歴 書

20XX 年 10 月 1 日現在

ふりがな	しみず たろう
氏名	清水 太郎

写真を貼る位置

写真を貼る必要がある場合

1. 縦 36～40mm
横 24～30mm

2. 本人単身胸から上

※データの貼り付けも可

西暦 年	月	学歴（高校以降）・職歴（項目別にまとめて書く）
		【学歴】
20XX	3	〇〇高校卒業
20XX	4	■■大学〇〇学部▲▲学科 入学
20XX	3	〃 卒業
20XX	4	◇◆専門学校 通信制コース 入学
20XX	3	〃 卒業
		【職歴】
20XX	4	株式会社●●介護事業部 入社
20XX	3	株式会社●● 退職
20XX	4	社会福祉法人清水基金 しみず作業所（現サポートセンター清水）入職
20XX	4	サポートセンター清水 相談支援課 異動

西暦 年	月	免 許 ・ 資 格（項目別にまとめて書く）
20XX	3	社会福祉士 取得
20XX	3	精神保健福祉士 取得

推 薦 書

法人名 社会福祉法人清水基金

代表者名 理事長 清水一郎



被推薦者名 (申込者名)	清水 太郎
1. 現在の法人・施設における貴職員の業務的な立場や本人の強み、これまでの業務でのご活躍・実績などを記入してください。	
2. 貴職員に受講を通じて今後どのような役割を担ってほしいか、期待されていることを記入してください。	
3. 研修で得た成果を現場で実践・共有するために、法人としてバックアップ（時間の確保、権限の付与、共有の機会等）を予定していますか。	

ご自身の支援事例について

法人名: 社会福祉法人清水基金

氏名: 清水 太郎

テーマ	Aさんの自立した生活に向けて
支援目標	①自立に向けた理解の促進と取り組み ②家を離れて住むことの実践的経験を増やす ③グループホーム(以下、GH)等居住の検討を行う
対 象	年齢: 45 歳 性別: 男性 障害または疾病: ADHD、軽度知的障害 障害手帳種類及び等級: 精神障害者保健福祉手帳 2 級 支援区分: 2
支援の経過 現状の課題	①本人との面談: GHに住みたいと話をうける。GHから通所する仲の良いBさんの影響で、興味が出たとのことだった。ただ、一人暮らしやGHでの生活に対して漠然としたイメージしかなく、自宅を離れて暮らすことの理解が十分でないことが分かった。すでにBさんのGHに空きがあるので、見学の予約をお願いしたと話される。 ②ご両親との面談: 本人がGHに住みたいと話があった旨を伝えた。ご両親は、本人からそのような話は聞いていない、衝動的な行動があること、金銭管理の面もサポートが必要なため、現状一人で暮らすのは難しいと思う。一方で、自分達も高齢になり、今後を踏まえるとGH等で生活できるよう自立を促したい、現在サポートしてくれる姉の負担も軽減させてあげたいとのことだった。 ③本人の自立に対する理解の促進: 1人暮らしに必要なこと(家事や金銭管理、生活習慣等)を具体的に項目化し、本人に説明。本人と、できることとできないことを整理した。更にBさんのいるGHにも見学をし、再度本人に確認するとGHに住みたい意思は変わらない様子。BさんのGHに住むつもりで、本人がBさんを介して話を進めようとしている、Aさんが購入した家具がホームに届いたとGH職員より連絡がくる。 まずは、洗い出した身につけるべきことを段階別に分けた目標管理シートを作成。目標を達成したらGH居住への検討することを本人に説明した。ご家族やサービス利用事業所にも本件を共有した。
関係機関等の 役割分担 (支援状況)	就労継続B型事業所: GH利用者から経験を伝える機会を持つ。金銭管理等の支援。 行動援護事業所: 外出時の金銭管理の支援、衝動的行動時・危機のときの対応(電話連絡の仕方・交番へ駆け込むなど)。
考 察	・支援目標のうち現状①の段階でとどまっている。 ・Bさんの話やGH見学をしたことで、GHで暮らしたい気持ちが先走りしてしまっており、1人暮らしに身につけるべき目標に対する意識が向いていない。 ・目標達成後にGHの検討をする旨を説明し、その場では本人は「理解した」と言うが、「空きがなくなるとBさんのGHに住めない」と思い焦ってしまう様子が見られる。 ・本人の気持ちを大切にしつつ、どのように目標を意識してもらいながら支援をしていくかが課題で、作業所やご家族と話し合いながら支援方法を検討していきたい。

ご自身の支援事例について

法人名: 社会福祉法人清水基金

氏名: 清水 太郎

■本人の状況について

主訴(意向・希望)	
本人: 仲の良い B 君と一緒にグループホームで暮らしたい。早く一人前になりたい。 家族: 親亡き後を見据え、今のうちに自立の準備をしてほしい。	
本人の性格・特性	家族構成・家族構成の特徴・キーパーソン
性格: 穏やかで人懐っこく、年上からも可愛がられる。一方で、一度思い込むと周囲が見えなくなる傾向がある。 得意: 挨拶、ルーチンワーク、身だしなみを整えること。 不得意: 優先順位、感情のコントロール、複雑な計算。 好きなこと: 友人との会話、買い物、カラオケ。 嫌いなこと: 否定されること、待たされること。 その他: 興味があるものに対して後先考えず契約や購入をしてしまう「衝動性」が強い。	父 75 歳 母 72 歳 姉 40 代(別居) 本人 特徴: 両親との 3 人暮らし。家族とは良好な関係で、近所に住む姉も母親や A さんの外出のサポートをしてくれる。 キーパーソン: 母親
福祉サービス等社会資源の利用状況	住環境・経済状況
平日: 就労継続支援 B 型 (週 5 回) 土日: 行動援護(月 2 回、余暇外出支援) その他: 相談支援事業所によるモニタリング	住環境: 自宅(持家) 経済状況: 父親の自営(不動産会社経営) 障害年金: 有(障害基礎年金 2 級)
障害歴	医学的情報(服薬・受診歴等)
[胎生期・出生期] 正期産 [発育・養育歴] ・始歩 1 歳 発語 3 歳過ぎ ・診断 3 歳児検診にて障害の疑いあり ・小学校でのトラブルを機に、7 歳で ADHD および軽度知的障害の診断を受け、専門機関への相談を開始	・1988 年 N 病院受診 ・2013 年～ W メンタルクリニック(月 1 回受診) [服薬]・コンサータ
学歴・職歴	生活歴・現在の生活状況
[学歴] ・1988 年 小学校普通学級 入学 ・1990 年 特別支援学級 転入 ・1994 年 特別支援中学校入学 ・1997 年 特別支援高校 入学 [職歴] ・2000 年～2016 年 一般企業就職(障害者雇用) ・2018 年～ S 作業所通所。	・診断後も対人トラブルが続き支援学級へ転入。 ・特別支援学校を卒業後、一般企業の清掃業務に従事。安定して働いていたが、40 歳を過ぎた頃に職場の環境変化や体力の不安から一時休職や入院療養もあり離職。 ・1 年間の在宅生活を経て、現在の S 作業所へ通所を開始。 ・家事や金銭管理は全面的に母親が担っているが、欲しいものを購入しやすい環境にある。